



同前四號糸一寸二分目橫百掛八拾間代一間ニ付金貳拾參錢替  
金七圓〇八厘也

同前四號糸一寸目橫拾掛二百十九間代一間ニ付金參錢貳厘替  
金七圓參拾五錢也

同前五號糸一寸二分目橫拾掛百七十五間代一間ニ付金四錢貳厘替  
金參圓四拾五錢六厘也

同前四號糸一寸目橫八掛百八間代一間ニ付金參錢貳厘替  
金九圓八拾六錢也

棕栝上等綱三打徑三分右撚左撚各百四十五間ツ、合計貳百九拾間代一間ニ付金參錢四錢替  
金拾五圓也

麻綱三打徑三分百五十間代一間ニ付金拾錢替  
金拾五圓五拾四錢也

麻綱三打徑二分五厘二百二十二間代一間ニ付金七錢替  
金五拾六圓也

麻綱徑六分左撚右撚各八十間ツ、合計百六十間代一間ニ付金參拾五錢替  
金拾七圓也

麻綱徑三分五厘百七十間代一間ニ付金拾錢替  
金貳圓八拾錢也

麻綱徑二分五厘四十間代一間ニ付金七錢替

金拾參圓五拾錢也

綿糸五十號糸四貫五百匁代一貫匁ニ付金參圓替

金拾九圓貳拾錢也

綿糸二號糸六貫目代一貫目ニ付金參圓貳拾錢替

金拾圓也

麻五貫匁代一貫匁ニ付金貳圓替

金參拾八圓八拾八錢也

桐浮子長八寸幅四寸厚三寸重量八十匁以上ノモノ六百四十八枚代一枚ニ付金六錢替

金拾四圓四拾錢也

鉛沈子十八貫匁代一貫匁ニ付金八拾錢替

金七圓九拾貳錢也

眞鍮製環内徑二寸金ノ經三分ノモノ六十六個代一個ニ付金拾貳錢替

金七圓也

七分網用パテント滑車二個代一個ニ付金參圓五拾錢替

金貳圓六拾錢也

眞鍮製撥戻器二個代

金四拾貳圓五拾錢也

襷皮二百五十貫代。一貫匁ニ付金拾七錢替

七圓五拾錢也

阿仙藥代五十斤代一斤ニ付金拾五錢替

金百四拾圓也

網仕立手間代二百八十人分一人ニ付金五拾錢宛

網ノ構造 前記ノ材料ヲ以テ作成シタル網ノ構造ハ左ノ如シ

全體周縁ノ尺度

全長(上下縁共) 百四十四尋

幅

中央 貳拾參尋

兩端 拾八尋

網地縫合

本網ハ左右共ニ同一ナルヲ以テ今右網ノミニ就テ記ス

(イ)(ロ)(ハ)ハ魚捕ニシテ綿糸九本燃十四節目(曲尺五寸間ニ結節十ヶヲ有スルモノニシテ以下幾節目ト稱スルハ凡テコノ

例ニ依ル)横百掛長五尋切ノ網地各十九反宛ヲ横目ニ縫合ス(凡テ二百八十五尋左右網合シテ五百七十尋)(ニ)ヨリ(ヌ)マテ

ハ綿糸六本燃十四節目横百掛長五尋切ノ網地各十九反ツ、ヲ横目ニ縫合ス凡テ六百六十五尋左右網合シテ千三百三十尋)

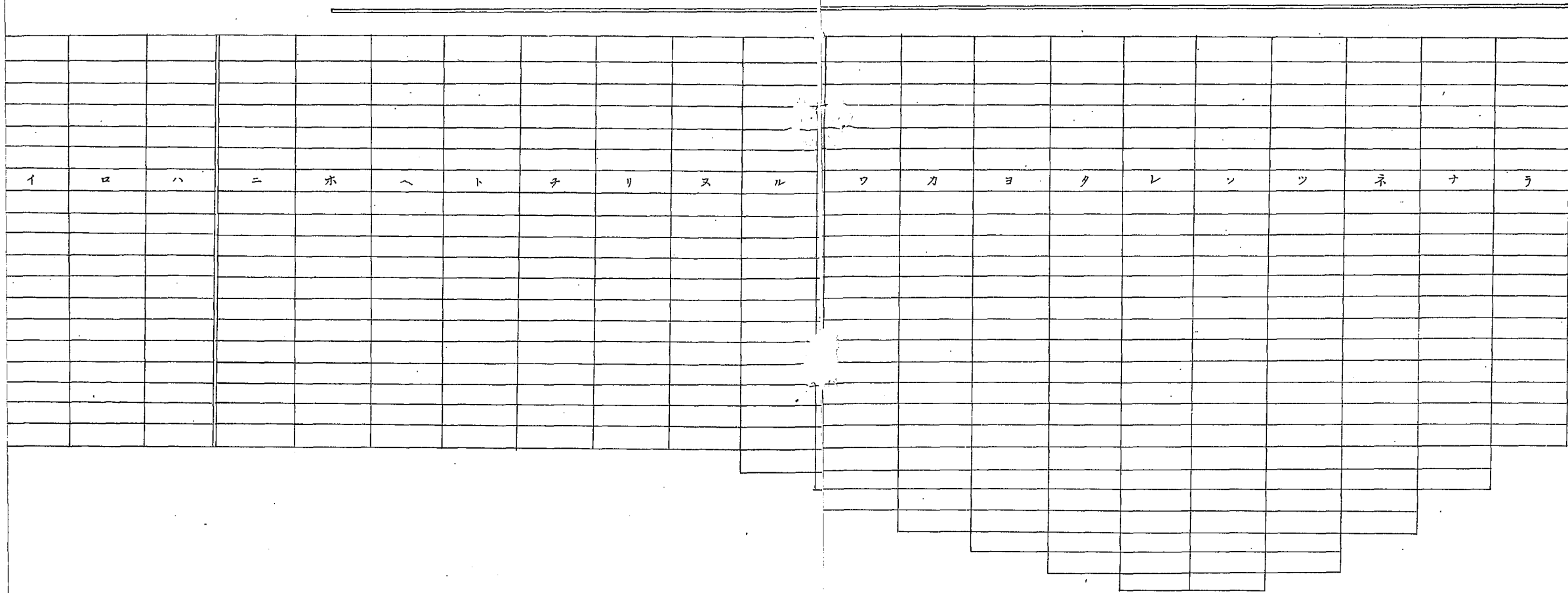
(ル)ハ同上ノ網地二十反之ヨリ(タ)ニ至ルマテハ順次一反宛ヲ増シ(タ)ニ至テ二十五反トナル(凡テ六百七十五尋左右網合

シテ千三百五十尋)

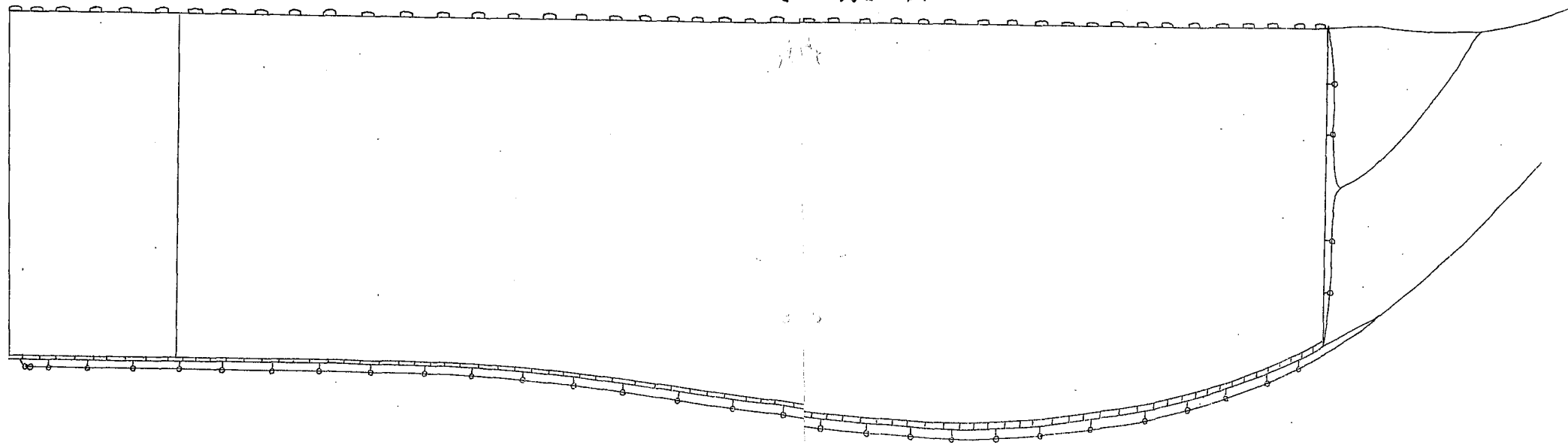
(レ)(ソ)ハ同上ノ網地各二十六反宛(凡テ二百六十尋左右網合シテ五百二十尋)

(ツ)ハ同上ノ網地二十五反之ヨリ(ラ)ニ至ルマテ順次二反宛ヲ減シ(ラ)ニ至テ十九反トナル(凡テ四百四十尋左右網合シテ

八百八十尋)



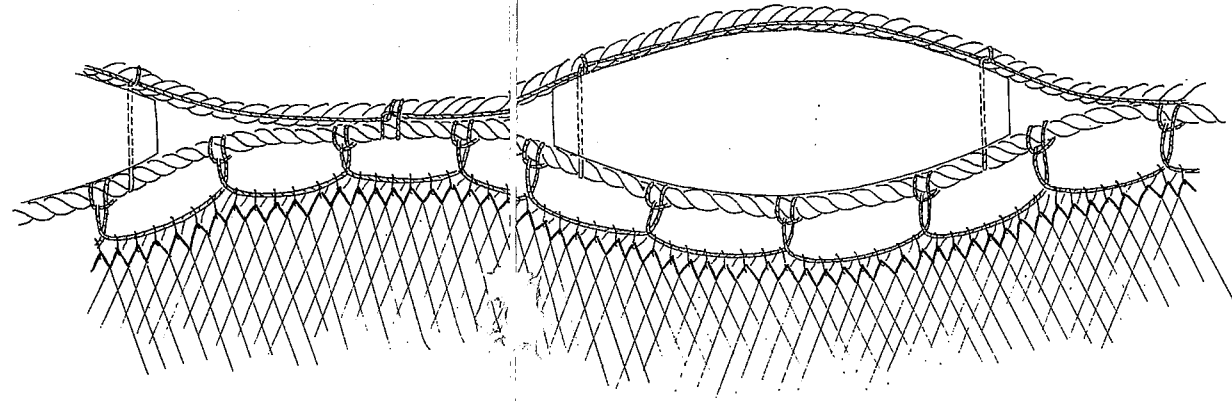
出 来 圖



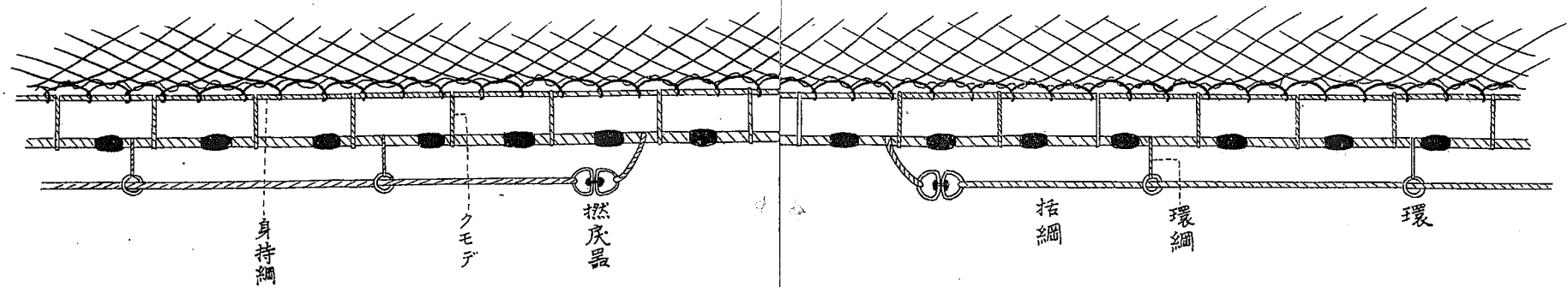
左右網共ニ同一ナルヲ以テ茲ニハ右網ノミヲ示ス  
半網長サ七十二間全長百四十四間

大 鯰 揚 網 網 圖

浮子圖 1/4



中 央 網 圖



(ム)ハ綿糸十二本撚一寸二分目横百掛一尋切ノ網地四十反ヲ翼網部ノ下方ニノミ縦目ニ縫合ス(總テ四十尋左右網合シテ八十尋)

上縁網ハ綿糸十二本撚一寸目横十掛ノモノ八十七尋半(左右網合シテ百七十五尋)

下縁網ハ綿糸十五本撚一寸二分目横十掛ノモノ八十七尋半(左右網合シテ百七十五尋)

兩端縁網ハ綿糸十二本撚一寸目横十掛ノモノ各二十二尋ツ、ヲ用フ

中央及魚捕部ト兩翼網トノはかいニハ綿糸十二本撚一寸目横八掛ノモノ各二十七尋宛ヲ用フ

周縁ノ構造 浮子網ハ棕梠三打徑三分左撚右撚各七十二尋宛(左右合シテ各百四十四尋)ニテ浮子ヲ挾ムコト圖ニ示スカ如ク

ス

浮子ハ桐製長八寸幅四寸厚三寸ノモノ一尋間ニ凡ソ三個宛ヲ結附ス

兩端縁網ノ外方ニ麻三打徑二分五厘長十八尋ノモノ各一條宛ヲ結附ス

沈子網ハ麻三打徑三分ノモノ七十五尋(左右合シテ百五十尋)

沈子ハ鉛製ニシテ長一寸徑九分一個ノ重量凡ソ三十匁總重量十八貫匁トス

身持網ハ麻三打徑二分五厘ノモノ七十五尋(左右合シテ百五十尋)

くもでハ麻三打徑二分五厘長一尺ノモノヲ凡ソ二尺隔テニ結附ス

環網ハ麻三打徑二分五厘長二尺ノモノヲ折返シ二重トシテ用フ

播網ハ麻三打徑六分左撚右撚各八十尋宛合計百六十尋手元良綱ハ麻三打徑三分五厘ノモノ八十五尋(左右合シテ百七十尋)

試験地方ノ海況 第一次試験地山川ハ揖宿郡ノ東南鹿兒島灣口ニ在リテ此近海ハ距岸凡ソ一哩以内ハ水深十二三尋以

内底質岩礁多ク揚繰網ノ使用ニ適セサレトモ之ヨリ以外ハ水深頗ニ増加シテ二十尋以上ニ達シ揚繰網ヲ使用シ得サル所少シ

只此地近海ハ鹿兒島灣ノ水道ニ當レルヲ以テ潮流急馳ナル時多キヲ憾事トス

抑モ此地近海ニ來游スル魚類ノ主ナルモノハいわし、うるめいわし、あぢ、さば、するめいか、たいはがつを、ぶり、しび等ニシテ就中いわしノ盛漁期ニ至レハ各地ヨリ集合スル八田網三十張漁船二百艘許ニ達スルコトアリいわし族ノ洄游夥多ナルヲ徴スルニ足ル是第一次試験地トシテ撰定シタル所以ナリ

第二次試験地志布志ハ有明海ノ片隅灣岸ニ在リテ灣内水深八九尋乃至三十尋餘ノ所多ク潮流急ナラス底質ハ多少ノ閘礁ナキニアラサルモ多クハ砂質ニシテ概シテ網具類ノ使用ニ最モ適當セリ然レトモ灣外肝屬郡岸良近海ハ沿岸多クハ斷崖ニシテ水深ク潮流急馳ニシテ網具類ノ漁場トシテハ有明海ニ及ハサルコト遠シ又宮崎縣油津以南ニモ出漁試業セリ同地方ニ於テモ都井崎附近ハ潮流急激ニシテ揚繰網ノ使用ニ適セサレトモ其他ハ沿岸ニ於テ水深多クハ七八尋乃至十二三尋漸ク沖スルニ隨テ三十尋以上トナリ底質ハ砂岩相混交スレトモ晝間揚繰網ノ使用ニ適セル處少カラス又否ラサル所ト雖焚寄法ニ依ルトキハ本網ヲ使用シ得サル所少シ

本試験地近海ニ來游スル魚類ノ主ナルモノハいわし、あぢ、さば、しび、ぶり、かつを、はがつを、たい等ニシテ就中いわし、さば、あぢ最多ク志布志地方ニ於テハ八田網ヲ以テ盛ニ是等ノ三種類ノ捕獲ニ從事シ終年絶ユルコトナシ第二次試験地トシテ撰定シタル所以ナリ

### 試験ノ方法

巾着網試験ノ經驗ニ徴シ網船乗込員ハ廣ク傳習生ヲ募集スルヨリモ可及的試験地方ノモノヲ雇入レ之ニ充分網ノ使用法ヲ解得セシムル方却テ將來ノ爲良策ナルヘシト信シタルニ依リ本試験ニ於テハ通常漁夫ヲ雇入レ使役シタリ

第一次試験地山川近海ニ來游スルいわしハ主トシテうるめいわしニシテまいわしニ比スレハ網ニ圍繞セラレタルトキ下層ニ沈降スルコト速ナリ又篝火ヲ以テ誘致シ群集セシムルコトヲ得レトモ常ニ海水ノ下層ニアリテ其中層以上ニ浮上スルハ黎明前僅少ノ時間ニ過キサルヲ以テ本試験モ從來八田網漁業者ノ爲セル方法ヲ取リ凡ソ午前二時頃ヨリ出漁シ同四時ヨリ篝火ヲ點シテ魚群ヲ誘致シ曉前ニ至リ一回ツ、網ヲ使用シタリ

第二次試験地志布志近海ニ來游スルモノハ多クハまいわしニシテ海況モ揚繰網ニ適セルヲ以テ主トシテ晝間ノミ出漁ニ焚寄



法ハ僅ニ數日間肝付郡岸良及宮崎縣近海ニ於テ試驗シタルノミ

網ノ使用法 本網ニハ巾着網ニ於ケルカ如ク分銅ヲ使用セサルヲ以テ「ダビット」及之ニ附屬セル滑車ヲ要セサルノミニ

テ其他ノ設備ハ凡テ巾着網船ニ異ルコトナシ

網船ノ準備了レハ網ヲ積入レ沖合ニ至リ魚群ヲ見テ投網シ之ヲ繰揚クル等巾着網ト大差ナシ即テ網ヲ張廻ハシテ兩船ヲ舫ヒタルトキ乙船ヨリ其括網ヲ甲船ニ渡シ之ヲ分銅ニ附設セル滑車ニ嵌通セシメ分銅ヲ投入スル等ノ手數ヲ要セス唯兩船共ニ各自ニ番かんぬきノ舫外ニ(甲船ノモノハ其左舫乙船ノモノハ其右舫)突出セル處ニ括網ヲ嵌メテ引揚スルノ差アルノミトス

試驗日誌

第一次試驗(指宿郡山川)

月	日	天氣	風位	風力	漁場	潮	流	海水ノ	投網	打廻時間	種類	漁獵物	數量	紀	事
十一月	十六日	曇	和北	東	兒ヶ水沖	東	急	清	後四時	五十分	ナシ	ナシ		網使用傳習ノ爲メニ投網シタリ	
同	十七日	雨	和北	東	同	東	緩	清	前四時	三十分	うるめ	六百七十斤		篝火ニ群集シタルいわしハ非常ニ多カリシモ漁夫不熟練ノタメ網船ニ過失アリテ僅ニ一部ヲ捕獲シ得タルノミ	
同	十八日	雨	疾西											雨天ノタメ休業ス	
同	十九日	晴	和北	北東	同	北東	緩	濁	前六時	八三分	うるめ	五百斤			
同	二十日	晴	和北	北東	赤水鼻沖	北東	急	濁	同	八三分	うるめ	百五十斤			
同	二十一日	曇	和北	北	角曾根	北	急	清	前六時	七二分	うるめ	百四十斤			
同	二十二日	雨	和北	北	大曾根	北	急	清	二前六時	七二分	うるめ				

試驗日誌

いわし大ニ群集シタルモ礁頭水面下十八尋位ニシテ潮流トノ關係上コノ所ニ於テ網ヲ使用スルコト能ハサルニツキ他方ニ誘致セントナシタルモ魚群移動セスタメニ一尾ヲモ捕獲スルコト能ハス



同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
二十九日	二十八日	二十七日	二十六日		二十五日	二十四日	二十三日		二十二日	二十一日		二十日	十九日			十八日
雨	雨	曇	晴	同	快晴	曇	晴	同	晴	曇	同	曇	曇	同	同	曇
軟北西	軟北西	微北東	和北西	同	軟西	和西	微西	同	軟西	和北西	同	軟北西	微北西	同	同	和北西
		柏原内ノ浦近海	ビロイ島附近	同	志布志沖	ノビロイ島ノ西方	ノビロイ島ノ北東方	ノビロイ島ノ北方	大崎沖	附近	ノビロイ島ノ北東方	ノビロイ島ノ北方	ノビロイ島ノ北西方	ノビロイ島ノ北方	ノビロイ島ノ西北	ノビロイ島ノ東方
		南	北	同	南西	西	北	同	北	北	同	南	南	同	同	南
		急	急	同	緩	緩	極緩	同	緩	緩	同	急	急	同	同	緩
		濁	濁	同	濁	清	清	同	濁	清	同	清	濁	同	同	濁
					前十五分	前九分	前十分	前十三分	後五分	前十一分	前十二分	前十分	前九分	後一分	前十分	前九分
					七二分	七二分	七二分	七二分	八二分	九二分	十二分	七二分	八二分	八二分	六二分	七二分
					分分	分分	分分	分分	分分	分分	分分	分分	分分	分分	分分	分分
					まいわし	まいわし	まいわし	まいわし	まいわし	まいわし	まいわし	まいわし	まいわし	まいわし	まいわし	まいわし
					九千四百尾	六千五百尾	四千二百尾	十二尾	三千二百尾	千三百尾	四百五十尾	二萬九千尾	四萬千尾	四萬千尾	四萬千尾	八萬四千尾
雨天ノタメ休業ス	午前八時内ノ浦出帆午後十時志布志歸着	足速ク又ハ暗礁ノアル所ニシテ網ヲ使用スルコト能ハス	柏原近海ヨリ内ノ浦ニ至ル間魚群多シト雖遊	大崎沖ヨリビロイ島近海ニテ數回魚群ヲ認メタルトモ悉ク暗礁アリテ網ヲ使用スルコト能	本日ハ一般ニ魚群少キヲ以テ午後宮崎縣福島沖ニ至リシモ亦魚群ヲ認メス	本日ハ一般ニ魚群少キヲ以テ午後宮崎縣福島沖ニ至リシモ亦魚群ヲ認メス	本日ハ一般ニ魚群少キヲ以テ午後宮崎縣福島沖ニ至リシモ亦魚群ヲ認メス	本日ハ一般ニ魚群少キヲ以テ午後宮崎縣福島沖ニ至リシモ亦魚群ヲ認メス	本日ハ一般ニ魚群少キヲ以テ午後宮崎縣福島沖ニ至リシモ亦魚群ヲ認メス	本日ハ一般ニ魚群少キヲ以テ午後宮崎縣福島沖ニ至リシモ亦魚群ヲ認メス	本日ハ一般ニ魚群少キヲ以テ午後宮崎縣福島沖ニ至リシモ亦魚群ヲ認メス	本日ハ一般ニ魚群少キヲ以テ午後宮崎縣福島沖ニ至リシモ亦魚群ヲ認メス	本日ハ一般ニ魚群少キヲ以テ午後宮崎縣福島沖ニ至リシモ亦魚群ヲ認メス	本日ハ一般ニ魚群少キヲ以テ午後宮崎縣福島沖ニ至リシモ亦魚群ヲ認メス	本日ハ一般ニ魚群少キヲ以テ午後宮崎縣福島沖ニ至リシモ亦魚群ヲ認メス	本日ハ一般ニ魚群少キヲ以テ午後宮崎縣福島沖ニ至リシモ亦魚群ヲ認メス









ヲ要シ之レカ爲他府縣ニテハ一艘十五六名乃至二十名ノ乗込ナルニ拘ハラヌ本縣ノモノニハ二十五六名乃至三十名ノ乗込ヲ要スルノミナラス鯉餌料トシテ鯉ハ鯪ニ及ハサルコト遠シ故ニ本場ニ於テ鯪魚ノ供給法ヲ講シ又從來ノ如ク鯪飼養上ニ於ケル勞力ヲ省カンカ爲左ノ方法ニ依リ川邊郡西加世田村片浦野間池ニ於テ試驗ヲ施行シタリ

第一鯪ヲ活ケ樽ニ放養シタル後潮替ヘヲナスニ手動唧筒ヲ用ヒテ勞力ヲ省クコト

第二鯪ハ活ケ籠内ニテ飼養シ得ルモノナルヤ否又如斯シテ數日間馴養シタルモノヲ船籠ニ移シ凡ソ幾日間位生活シ得ルヤヲ

視ルコト

第三熊本縣天草郡地方ニ飼養セル鯪ヲ購入運搬シ鯪ト對比シテ經濟上ノ試驗ヲナスコト

第一唧筒試驗 本試驗ニ使用シタル唧筒ハ東京宇野澤組鐵工場ノ製作シタルモノニシテ之レヲ船ノ胴ノ間ニ於テ表ノ間

ニ接近セシメテ附設シ表ノ間ニハ從來當業者ノ使用セル活ケ樽(最小形ニシテ口徑三尺中央最大部ノ徑五尺五寸深四尺)ヲ据附ケ以テ試驗ニ着手シタリ

第一回試驗 九月二十六日早朝野間池港外米島附近ニ於テ鯪捕獲ニ從事シ網ヲ使用スルコト三回鯪凡ソ正味八升ヲ得直チ

ニ活ケ樽ニ投入シ唧筒ノ吐水口ヲ樽内潮水中ニ深ク挿入シ樽ノ内側ニ斜ニ注水セシメ又徑二寸五分ノ竹管ヲ樽ノ上椽下四寸ノ處ニ附設シ樽内ノ水ヲ流出セシメタリ然レトモ此方法ノミニテハ樽内潮水渦狀ニ回轉セス隨テ鯪ノ游泳亂雜トナルノミナラス唧筒ヨリ注入スル水量ハ竹管ヨリ流出スル量ニ勝ルコト數倍ナルヲ以テ柄長ト稱スル柄杓ヲ以テ水ヲ汲出スト其ニ渦狀ニ回轉セシムルコトニ務メタリ

如斯ニシテ夕刻ニ至ルマテハ鯪生活ノ狀態頗ル佳良ナリシモ夜ニ入りテハ其游泳遲緩トナリ潮水ノ注入激烈ナルトキハ回泳ノ方向ヲ轉シ水面ニ浮上スルノ傾向ヲ呈シタルニツキ吐水口ノ裝置ヲ少ク變更シ注水ヲ直下セシメ柄長使用ノ度數ヲ増シ潮水ノ混亂ヲ防クニ努メタレトモ多數ノ人員交互從事スル爲注入ノ加減一定セス加之汲出ニ不熟練ナルモノアリ柄長ヲ以テ浮上セル鯪ヲ傷害スルノ患アルヲ以テ大ニ注意ヲ加ヘタルモ漸次斃死魚ヲ出シ翌日午前三時ニ至テハ其數益々多キヲ



加ヘタルニ依リ攪網ニテ悉ク之ヲ抄去リ唧筒注水ノ度ヲ減シ更ニ從來ノ方法ニ依リ柄長ヲ以テ潮水ノ汲入レ汲出シテ充分ナラシメ游泳ノ状態ヲ研究シ復活ノ方法ヲ講セシモ遂ニ其効果ヲ收ムルコト能ハス翌朝ニ至テハ殘存セルモノ僅ニ四分ノ一弱ニ減少セリ然レトモ是等殘存セル少量ノモノハ二十七日午前十一時ニ至ルモ頗健全ニ生活シ永ク斃死セサルモノト認メタリ

右試験ノ結果斯ク多數ノ斃死魚ヲ出セシハ其原因種々アルヘシト雖要スルニ左記數項ハ其主ナルモノ、如シ

一 樽ノ容積ニ比シ鰻ノ活ケ方多量ニ過キタルノ傾キアリシコト

一 夜中ニ於ケル汲出方ノ不熟練ナリシ爲鰻ヲ傷害セシコト

一 唧筒ニ附着セル油分ノ絶ヘス水中ニ混和シタルコト

一 注水量不同ナリシコト即チ時トシテハ激烈ニ過キ又時トシテハ餘リニ遲緩ナリシコト

第二回試験 第一回試験ノ結果ニ鑑ミ唧筒ノ吐水口ヲ大ニシ其附設ノ位置ヲ樽ノ上縁ヨリ下方凡ソ三寸餘ノ處ニ變シ注水カノ激烈ニ過クルヲ避ケ排水管ヲ經四寸二分ノモノニ改メ可及的注水排出ノ量ヲ平均セシメ又一定ノ時間内ニ於ケル唧筒使働ノ數及ヒ辨テ上下セシムル距離ヲ定メ以テ潮水注入量ニ不同ナカラシムルノ裝置ヲナシ九月二十九日鰻捕獲ノ爲米島附近ニ出漁シタルモ潮流順ナラス午後二時ニ至リ網ヲ下スコト二回鰻凡ソ正味六舛ヲ得直チニ活ケ樽ニ移シ唧筒ヲ使用シツ、午後四時歸港シタリ

本試験モ亦第一回試験ト同シク晝間ハ其成績頗ル良好ナリシモ夜ニ至リテ漸次生魚衰弱シ斃死スルモノ多ク其生活セルモノモ游泳甚ダ遲緩ニシテ恰モ瀕死ノ状態ヲ呈セリ故ニ唧筒ノ使用ヲ中止シ注入排出共ニ柄長ヲ用ヒ從來ノ方法ノミヲ行ヒシニ少シク活氣ヲ來シタル如シト雖著ク回復シタリト云フ程ニハ非ルヲ以テ更ニ唧筒ヲ用ヒ注水ノ量ヲ減シ其回轉ヲ緩靜ナラシメタルモ其効顯ナク翌日午前三時前後ニハ大ニ斃死ノ數ヲ増加シ翌朝ニ至テハ生活セルモノ僅ニ全量ノ三分一弱ニ減少シタリ

本試験ニ於テ鯨斃死ノ主ナル原因ハ左ノ數項ニ歸着スヘシ

一 鯨ハ夜間ニ至レハ水面ニ浮上スルコト多ク(當業者ノ經驗ニ徴スルモ亦然リ)且ツ游泳緩トナルヲ以テ夜間ニハ特ニ潮水ヲ混亂セサル様注意スルヲ可トスルモノ、如シ然ルニ唧筒ニテ注入シタル水力激烈ニ過キ鯨ハ此回轉烈キ潮水中ニ於テハ游泳ニ堪ヘス疲勞ノ極斃死スルニ至リシコト

二 樽内ノ潮水ハ柄長ヲ以テ汲出シ渦狀ニ廻轉セシムレハ鯨ノ排泄物其他ノ汚物ハ渦ノ中心ニ浮上シ來リ柄長ニテ汲棄テラル、ト雖本試験ニ於テハ竹管ノミニ依リテ潮水ヲ流出セシメタル爲汚物沈滯シ遂ニ鯨ノ健康ヲ害シタルコト

一 當業者ノ經驗ニ依ルニ捕獲後馴養ノ時間少カリシモノハ夜間ニ至リ斃死スルモノ比較的多シト云フ然ルニ本試験ニ供用シタルモノハ午後二時以後ニ捕獲シタルモノナリシヲ以テ或ハ馴養ノ時間不足ナルノ嫌アリシコト

一 唧筒ニ附着セル油分ノ混和スルヲ防クニハ種々力ヲ用ヒタレトモ尙多少ノ混入ヲ免レサリシコト

第三回試験 十月十五日唧筒ノ吐水口ヲ活樽ヨリ稍高所ニ懸垂シ潮水ヲ落下セシムルノ裝置トナシ早朝ヨリ米島附近ニ於テ鯨ノ捕獲ニ從事シ凡ソ六升許ヲ得テ直ニ活ケ樽ニ投入シ注水ハ唧筒ニ依リ排水ニハ專ラ柄長ノミヲ用ヒシニ晝間ニ於ケル成績ハ大ニ良好ナリシモ夜半ニ至リテハ漸次水面ニ浮上シ且ツ斃死スルモノ多キヲ以テ之レカ豫防方法ニツキ種々講究ノ結果燈光ヲ以テ樽内ノ水面ヲ照セシニ稍浮上ノ數ヲ減シ又浮上シタルモノモ柄長ニテ打傷セラレ或ハ汲棄テラル、ノ憂ナキニ至レリ如斯ニシテ翌日午前八時ニ至リ其數ヲ檢セシニ生存セルモノ三分二強ヲ得タリ

之レヲ前二回ノ試験ニ比スレハ其成績稍々良好ナルヲ以テ更ニ此方法ヲ繰返シ注水口ノ構造及裝置等ニツキ大ニ研究ヲナスコト、シタリ

第四回誠驗 十月十九日かせ島附近ニ於テ鯨ヲ捕獲シ凡ソ六升ヲ樽ニ投入シテ試験ヲナシ翌朝ニ至リ樽内ヲ檢セシニ鯨ハ生死相半シ前回ヨリ却テ不結果ヲ得タリ

前記數回ノ試験ニ依リ鯨ノ斃死スル主ナル原因ヲ考察スルニ唧筒ノ吐水口ヲ樽内ノ潮水中ニ挿入スレハ其力激烈ニ過キ遂

ニ鯨ヲ疲勞セシメ又樽ヨリ高所ニ裝置スレハ之ヨリ落下スル水勢ハ弱ニ失シ柄長ヲ以テ汲入ル、如ク其力激シカラサルモ

而モ樽ノ底部ニ到達シ潮水ヲ靜順ニ交環セシムルコト能ハサルニ依ルモノ

、如シ

第五回試驗 鐵葉板ヲ以テ圖ノ如キ圓管ヲ製シ之レヲ唧筒ノ送水管ニ接續

セシメ尙ホ其吐水口ハ二三様ニ取換ヘ得ル準備ヲナシ十月二十一日米島附

近ニ於テ之ヲ捕獲シ凡ソ六升ヲ活ケ樽ニ投入シ鐵葉管ハ樽内種々ノ場所ニ

裝置シ又吐水口モ種々ニ變更シテ試驗ヲナシ結局其大サ徑一寸トシ位置ヲ

水面下一尺許ノ處ニ定メ排水ニハ柄長ニテ汲出ヲナスコト、シテ試驗ヲ繼

續シタリ然ルニ夜半ニ至ルマテハ鯨ハ一尾モ水面ニ浮上セス且斃死スルモ

ノ極メテ少ク其成績大ニ良好ナリシモ翌日午前二時前後ヨリハ漸ク衰弱シ

游泳亂雜ニシテ遲緩トナリ斃死スルモノ相踵キ翌朝ニ至テハ生存セルモノ

全量ノ二分ノ一強ニ過キス

以上數回試驗ノ結果ニ依レハ鯨ノ衰弱斃死スルハ主トシテ午前二時ヨリ黎明

マテノ間ニアリ本試驗ニ於テモ亦午前二時前後ヨリ漸次衰弱シ始メタルニツ

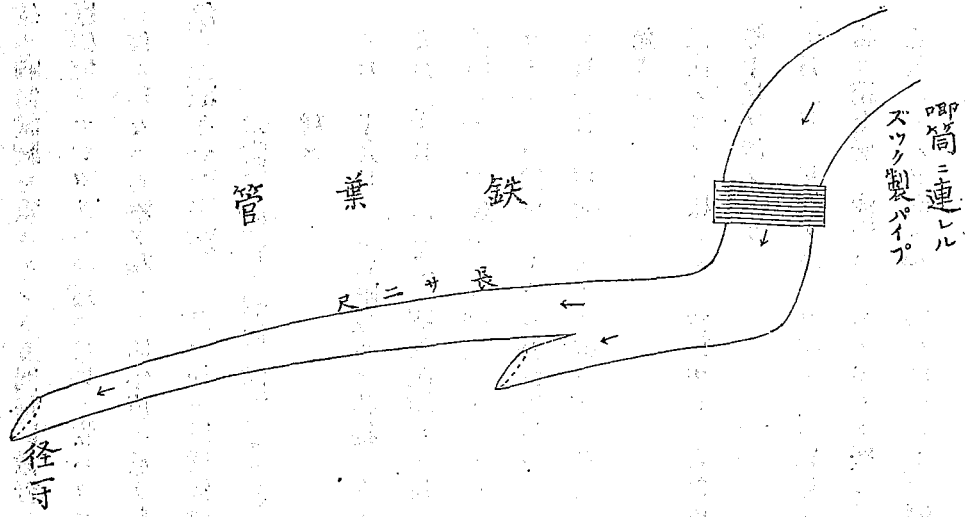
キ鐵葉管ノ構造完全ナリシトハ思惟セサルモ本試驗ヲナスニ當テハ二十一日

午後ヨリ風力強烈ニシテ港内潮水ノ流通好キ處ニハ到底船ヲ碇泊セシムルコ

ト能ハサルヲ以テ遂ニ港奥水深ニ尋許ノ處ニ碇泊セシメタリ夜半ヨリハ強雨

襲來シ港内一面ニ溷濁シ又非常ニ多量ノ淡水混入シタル等ハ特ニ鯨斃死ノ大

原因ナル可シト認ム



茲ニ唧筒試験ヲ重ヌルコト五回毎回徹宵シテ業ヲ行ヒ鰻生活ノ状態ヨリ器具機械ノ構造并ニ樽内潮水ノ回轉等凡テ精緻ニ觀察研究ヲナシタリシモ遂ニ良果ヲ收ムルコト能ハサリシハ實ニ遺憾ニ堪ヘサルトコロナリ然レトモ本回試験ノ結果ヲ基礎トシ尙ホ種々ニ考察ヲ疑ラシ明年度ニ於テ繼續試験ヲナサントス

## 第二活ケ籠試験

活ケ籠ハ野間池港内潮水ノ流通好キ處ヲ撰定シテ浮裝シタリ

(説明ニ便宜上唧筒試験ニテ生存シタルモノヲ放養スル籠ヲ甲籠ト稱シ捕獲シタル儘ノモノヲ放養スル籠ヲ乙籠ト稱ス)

九月二十九日 米島附近ニテ捕獲シタル鰻凡ソ六升ヲ活魚鱸ニ放養シ歸港ノ後直チニ乙籠ニ移シタリ

九月三十日 前日來ノ唧筒試験ニテ殘存セルモノ凡ソ二升ヲ甲籠ニ放養ス

乙籠ノモノヲ檢スルニ斃死セルモノ凡ソ四分一(小弱ナルモノ、ミニシテ稍大ナルモノハ一尾モ混交シ居ラス)ニシテ生存セルモノハ健康ナレトモ游泳亂雜ニシテ一定ノ方向ナク性質穎敏トナリテ微カナル音響ニモ驚怖スルノ傾キアリ

十月一日 甲籠ノモノヲ檢スルニ樽内ニ在リシ時ト同シク右廻リニ游泳シ頗ル健康ニシテ斃死シタルモノハ僅カニ數尾ニ過キス

乙籠ノモノヲ檢スルニ背部少シク青白色ヲ呈シ體形稍ヤ疲瘠セシヤノ感アリ游泳頗ル敏活ナレトモ其方向一定セス斃死魚數十尾ヲ認メタリ

十月二日 甲籠ノモノヲ檢スルニ斃死セルモノ五六尾生存セルモノハ頗ル健全ニシテ體形ニ異狀ヲ認メス背部ハ黃褐色ヲ帶ヒ稍上層ニ泳游スルモノ多シト雖モ其他ハ樽内ニ在リシ時ト異ナル點ナシ

乙籠ノモノヲ檢スルニ頗ル健康ニシテ體深青色ヲ帶ヒ水面ニ浮上セルモノハ人影ヲ認ムレハ直ニ沈降シ復容易ニ浮上セス十月三日 午前午後各二回ツ、籠内ヲ檢シタルニ甲籠ノモノハ集團シテ游泳セス頗ル亂雜ナリト雖右方ニ回游スル習性ハ敢テ去ラサルモノ、如シ其他ハ前日ト異ナル處ナク又斃死魚ヲ認メス

乙籠ノモノハ前日ニ異ルコトナシ

十月四日 籠内ノ鯨ヲ檢スルニ兩籠共ニ體色并ニ游泳ノ模様等前日ニ異ナルコトナク且ツ斃死魚ヲ認メス  
米島附近ニ於テ鯨凡ソ六升ヲ捕獲シ歸港ノ後乙籠ニ放養ス

十月五日 午前午後各二回ツ、籠内ヲ檢セシニ甲籠ノモノハ體色淡黄ニ變シ少ク疲瘠セシヤノ感アリ然レトモ能ク籠内ノ  
生活ニ馴レ試ミニ人手ヲ突入ル、モ敢テ驚カス悠然トシテ游泳セリ斃死魚ハ僅カニ數尾ニ過キス

乙籠ノモノハ前日新タニ捕獲シタルモノヲ放養シタル故ナルカ悉ク籠底ニ靜沈シテ回游セス斃死シタルモノ數尾ニ及ヘリ  
自十月六日至同十五日 此間毎日三回乃至四回ツ、籠内ヲ檢セシニ甲籠ノモノハ體色及游泳ノ模様等少シモ異狀ヲ認メス  
乙籠ノモノハ日ヲ追フテ籠内ノ生活ニ馴レ能ク上層ニ浮游シ又人影音響等ニ驚怖セサルニ至レリ然レトモ鯨ハ漸次籠内ノ  
生活ニ馴ル、ニ隨テ籠目ノ粗大ナル處ヨリ脱逸スルモノ非常ニ多シ

十月十六日 前日來ノ唧筒試驗ニテ生存セルモノ凡ソ四升ヲ甲籠ニ放養ス

十月十七日 籠内ヲ檢スルニ甲乙共ニ一尾モ斃死シタルモノナク體色并ニ游泳ノ狀況等ニハ少シモ異狀ヲ認メス依テ乙籠  
ノモノヲ甲籠ニ移ス

十月十八日 籠内ヲ檢スルニ鯨生活ノ状態ハ敢テ前日ニ異ナルトコロナシ然レトモ籠目ノ粗大ナル處ヨリ脱逸スルモノ益  
々多シ

十月十九日 前日ニ同シ

十月二十日 前日來ノ活ケ樽試驗ニテ殘存セルモノヲ活ケ籠内ニ移スタメ(活ケ籠ハ野間池港内ニ浮装シアリ然ルニ今回  
試験シタル處ハ天候ノ都合ニテ裏濱(外海)ニ於テ施行シタルニ付港内ノ活籠ニ至ルニハ凡ソ百間餘ノ陸地ヲ越ヘサル可ラ  
ス)通常ノ水桶ニ潮水ヲ滿タシ之ヲ渦狀ニ回轉セシメツ、樽内ノ鯨ヲ移シ迅速ニ且ツ桶ノ振動セサル様大ニ注意ヲナシ陸  
上ヨリ運搬シテ港内ニ至リ將ニ傳馬船ニ搭載セントスル時ニ當リ鯨ハ悉ク斃死シテ又一尾ヲ餘サス是ニ依テ觀ルトキハ鯨

ノ性質羸弱ニシテ人工ヲ用ヒテハ如何ニ飼養シ難キカヲ知ルニ足ルヘシ  
 自十月二十一日至同三十日 此間鯉ハ益々籠内ノ生活ニ馴レ體色ニ變化ヲ見サルモ體形少シク疲瘠シ日々多少ノ死魚アル  
 ナ免レヌ又悠然トシテ右廻リニ游泳スレトモ群集セスシテ個々亂雜ナルコト益々甚シ

### 籓試驗

前記ノ如ク活ケ籠内ニテ馴養シタル鯉ヲ更ニ活魚艙ニ移シ能ク航海ニ堪エ得ルヤ否ヲ檢スル爲メ鯉運搬試驗ノ

爲メ熊本縣天草郡牛深町ニ至ル航海中ニ施行スルコト、ナシ十月二十五日餌料試驗船活魚艙ノ木栓ヲ抜き去リ潮水ヲ入レ甲  
 籠ニ飼養セル鯉ノ内凡ソ五升ヲ移シ午前十時三十分野間池ヲ出帆シ東風ニ乘シテ進行シ小崎沖里餘ノ所ニ至リシニ俄然北風  
 襲來シタルヲ以テ不得已小浦ノ東濱ニ至リテ碇泊シ風位ノ變スルヲ待チタリ然ルニ午後七時ヨリ風位漸次西方ニ環ルノ傾キ  
 アルニ付直チニ出帆シテ徹夜帆走シ阿久根沖ニ於テ二十六日ノ旭光ヲ迎ヘ同日午後三時牛深町ニ着シタリ此間ノ生活ノ状態  
 ヲ檢スルニ海上平穩ナル時ハ悠々トシテ游泳シ波浪高クシテ船内潮水ノ動搖激キトキハ又之レニ隨テ活潑ニ游泳シ永ク活ケ  
 籠内ニテ馴養シタルノ効空シカラス此ノ航海中ニ斃死シタルモノハ僅カニ十二尾ニ過キス尙ホ牛深到着ノ後モ二十八日夕刻  
 マテニ斃死シタルモノ三四十尾ニシテ成績良好ナリ

鯉ハ活ケ籠内ニ於テ永ク飼養シ得ルモノナルヤ又如斯シテ馴養シタルモノヲ更ニ船籓ニ移シ能ク波浪高キ航海ニ堪ユルモノ  
 ナルヤ否トハ從來屢々當業者ヨリ發スル疑問ナリシモ本試驗ノ結果ニ依リ鯉ハ能ク活ケ籠内ノ生活ニ堪ユルノミナラス若シ  
 活ケ樽内ニ於テ一晝夜以上馴養シタルモノナレハ籠内ノ生活ニ馴ル、ニモ速カナルコト明白トナリタルヲ以テ當業者ハ將來  
 ニ於テハ多數相聯合シ餌料捕獲船ヲ專業トナシ常ニ鯉ヲ捕獲シテ活ケ籠内ニ馴養シ置キ其必要ニ應シテ供給スルノ組織トナ  
 サハ餌料ノ供給ヲ潤澤ナラシムルコトヲ得隨テ從來ノ如ク餌料ヲ得ルコト能ハサルノ故ヲ以テ出漁ニ躊躇スルノ憂ナク鯉漁  
 業經濟上ニ及ボス利益ハ實ニ偉大ナルヘシ

籠内ニ於テ馴養シタル鯉ハ更ニ活魚艙ニ移シ能ク波浪中ノ航海ニ堪ユルヤ否ニ就テテハ只一回ノ試驗ニ止マリシヲ以テ未タ  
 斷案ヲ下スコト能ハス雖モ本試驗ノ結果ニ依レハ決シテ不可能ノコトニアラサルカ如シ然レトモ尙ホ三十七年度ニ於テ繼

續試驗ヲナシ其結果ヲ報告スヘシ

## 第二鯧運搬試驗

本試驗ハ漁船ニ依リ曳船ニテ運搬スルモノト漁船自ラ航海シテ運搬スルモノト二種ノ試驗ヲ爲シ經濟上ノ得失ヲ比較スル豫定ナリシモ之ヲ實施スルニ當リ漁船所有者ハ曳船ノ爲漁船ノ航海力ヲ削クコト大ナルヲ以テ厭フテ肯セス強テ曳船ヲナサシメントスレハ非常ニ多額ノ賃錢ヲ要求セリ依テ曳船試驗ハ全ク之ヲ廢シ餌料試驗船自ラ航海運搬ノ試驗ノミヲ爲スコト、シタリ

本試驗ニ使用シタル船ハ長サ七尋四尺五寸巾八尺一寸五分ニシテ其胴ノ間ヲ前後ニ區劃シテ之ヲ二個ノ鑊トシ前方ノモノヲ長三尺四寸最大巾四尺四寸後方ノモノヲ長四尺七寸最大巾四尺六寸上口市二尺一寸深二尺五寸上口市三尺五寸深二尺六寸ニ作成シタリ

第一回試驗 十月二十五日午前十時三十分野間池出帆同二十六日午後三時牛深町ニ着シ直ニ鯧購入ニ着手シタルモ活ケ籠内ニ於テ充分馴養セラレタルモノナキヲ以テ爰ニ數日間其馴養スルヲ待タサル可ラサルコト、ナレリ

十月三十日 早朝試驗船ニ「石バラス」凡ソ七百斤ヲ積入レテ活魚籠内ノ水深ヲ増加セシメ鯧凡ソ五桶半ヲ購入シテ鑊ニ放養シ午前九時北東ノ軟風ニ乘シテ出帆シタルニ時ヲ經ルニ隨テ風力益々加ハリ船ノ動搖甚シ依テ活魚籠内ヲ檢スルニ鯧ハ頗ル健康ニシテ游泳最モ活潑ナリ然レトモ表鑊ハ潮水ノ振動激烈ニシテ魚類飼養上ニハ臚鑊ニ及ハサルコト遠シ同日午後五時野間池ニ着シ船ハ港内潮水ノ流通好ク且ツ波浪高キ所ヲ撰ミテ碇泊セシメタリ

十月三十一日早朝鑊内ヲ檢スルニ斃死セルモノ僅ニ五十尾餘ニシテ生存セルモノハ健全ニシテ游泳活潑ナリ依テ之ヲ營業者ニ分與シタリ

第二回試驗 十一月三日午前五時小浦出帆同四日午前九時牛深ニ着シ直ニ鯧ヲ購入シ歸航ニ就ク豫定ナリシモ五日ヨリ強風襲來シ航海危險ナルヲ以テ出帆スルコト能ハス九日ニ至リ風力漸ク減シタルヲ以テ鯧六桶ヲ購入シテ鑊ニ放養シ午前十時解纜シ北風ニ帆ヲ孕マシ駛走スルコト矢ノ如ク船ノ動搖甚シ然レトモ鯧ハ僅ニ三四十尾斃死シタルノミニテ其他ハ頗ル健康游泳ノ狀況大ニ活潑ナリ同日午後十時三十分野間池ニ着シ鯧ハ直ニ活ケ籠内ニ移養シ翌日營業者ニ分與シタリ

(場務ノ都合ニ依リ主任者一時歸場シタルヲ以テ其間試験ヲ中止シタリ)

第三回試験 十一月二十四日午前十時小浦出帆牛深ニ向ヒタルモ荒天ノタメ途中ニ數日ヲ費シ三十日午前三時辛フシテ牛深ニ着シタリ然ルニ十二月一日ヨリ五日ニ至ル間ハ風雨強クシテ出帆スルコト能ハス同六日ニ至リ風力漸ク減シタルヲ以テ鯔七桶ヲ購入シテ籩ニ放養シ(活魚艙ノ容積ニ比シ鯔ノ量多キニ過クルノ虞アリシモ試験ノ爲メ放養シタリ)午前十一時出帆シタリシニ連日荒天ノ後ナルニツキ波浪高クシテ船ノ動搖甚シク航海大ニ困難ナリ依テ活ケ鯔ヲ檢スルニ游泳活潑ナルトモ前二回ニ比スレハ斃死セルモノ甚タ多シ是レ一ハ籩ノ容積ニ比シ鯔ノ放養量多キニ過キタルト一ハ船ノ動搖激甚ナルト相俟テ其基因ヲ爲セルモノナルヘシ午後八時小浦ニ着ス

今回ハ試ミニ鯔ヲ活ケ籠ニ移養セス船ハ仁王崎沖ニ碇泊セシメタルニ斃死スルモノ少カラサルヲ以テ夜半船ヲ片浦沖ニ廻船シ橋頭ニ綱ヲ結附シ之ヲ引曳シテ船ヲ動搖セシメ籠内潮水ノ交換ヲ圖リシモ尙ホ斃死スルモノ絶エス翌朝ニ至テハ生存セルモノ全量ノ三分ノ二強ニ過キス而モ尙ホ斃死スルモノ相踵クヲ以テ復試ニ之ヲ活ケ籠内ニ放養シタルニ游泳ノ状態一變シ殆ト斃死スルモノナク成蹟良好ナリ是ニ依テ之ヲ觀ルトキハ籩ノ容積ト放養スヘキ鯔量トノ割合ハ大ニ注意ヲ要スヘキモノナルコト明ニシテ本試験船ノ籩ニ放養シ得ヘキ量ハ五桶許ヲ以テ安全トシ六桶餘ヲ以テ極度トスルモノ、如シ本試験ノ結果ニ依レハ巾八尺一二寸ノ漁船ニテ一回ニ六桶ヲ運搬シ得ヘク順風ニ乘スレハ一日或ハ一夜間ニテ牛深ニ到達シ得ルヲ以テ當業者將來ニ於テハ鯔ヲ必要トスル時期ニ至レハ豫メ運搬船ヲ派遣シテ鯔ヲ購入シ之ヲ居村ノ活籠内ニ放養シ置キ所要ノ時ニ供給スルコト、セハ從來ノ如ク魚釣船自ラ餌料需要ノ爲遠ク牛深ニ至リ數日間ヲ空費スル等ノコトナク鯉漁業經濟上大ナル利益ナルヘシト信ス

### ふか延繩貸與試験

#### 試験の主旨



本縣下近海至ル處ふかノ棲息夥シク前途有望ナル漁業ナルニ係ラス未タ斯業ノ盛況ヲ見ス僅カニ贈呷郡東志布志村肝屬郡東  
串良村柏原佐多村伊座敷鹿兒島郡谷山村揖宿郡穎娃村川尻日置郡西市來村大里串木野村濱浦薩摩郡上甕村平良ノ數ヶ所ニ於  
テ操業スルアルノミ其他ノ地方ニ至リテハ假令數千百ノ群集ヲ見ルト雖モ却テ之カ漁獲ヲ避ケ殊ニ熊毛郡屋久島ノ如キハ本  
加チ以テ魚族中ノ親魚ナリト云ヒ偶沿岸ニ來游スル魚族ハ全クふかノ誘致スルモノ、如ク迷信シス業ニ着手スルモノアルモ  
之ヲ妨害シテ作業セシメサルノ弊習ヲ存ス夫レ斯如キ慣習ヲ存ス焉ソノ斯業發展ノ期アラシヤ本場爰ニ見ルアリ先ツ其迷夢  
ヲ覺醒シ併セテ斯業ノ有望ナルヲ周知セシメ以テ之カ普及ヲ圖ラントシ斯業漁具ノ貸與試驗ヲ企圖セリ即チ其普及ヲ圖ト共  
ニ大分縣長崎縣地方ニ於テ行ハル、如キ漁具漁法ニ依リ之レカ改良ヲ期セント欲シタルモ未ダ俄ニ他府縣ノ漁具漁法ノミニ  
依リ難キノ事情アルヲ以テ從來縣下ニ使用スルトコロノ漁具ニ則リ五艘分ヲ新調シ將來斯業上最モ有望ト認ムル川邊郡西南  
方村秋目、揖宿郡穎娃村石垣、熊毛郡北種子村西之表及同郡屋久村宕之浦ノ四ヶ所ニ於ケル新企業ノ希望者ニ貸與シタリ  
ふか延繩ノ構造 此延繩ハ本縣下ニ於テ最モ盛ニ使用スル鹿兒島郡谷山ノ構成ニ則リ該地ノ實業者ニ其製造ヲ依托セ  
リ構造左ノ如シ

幹繩 麻十二本合セ即チ二子撚リ二本合セノモノ三本ヲ撚合シ極メテ剛直トナス一尋ノ重量五匁ニシテ一鉢分ハ貳百五  
十尋アリ五鉢ヲ以テ一艘分ト定ム

枝繩 幹繩ト同シ製法ニシテ稍太ク一尋ノ重量ハ五匁五分アリ之レヲ四尋トシ幹繩ニ結ビ先端ハ眞鍮製ノ鎖ニシテ七匁  
針金二條ヲ撚リ合セ三尺五寸宛ノモノ二本ヲ接キ長キ鎖狀ヲナサシム之ヲ釣ト結付セシムルニハ麻繩ヲ用ヒ上ヲ麻ニテ卷  
キ更ニ其上ヲ細糸ヲ以テ括レリ一鉢ノ幹繩ニ六本宛ヲ附ス

釣ハ鐵製ニシテ八角ニ打チ丸形トシ川邊郡片浦製ノモノヲ用ユ(以上圖參照)

漁場 漁場ハ大概大隅諸島ニ於テ使用セリ而シテ此等使用者ハ各屋久島ヲ以テ最モ前途有望ノ漁場ト認メタルモノ、如ク  
根據地ヲ同島上屋久村宮之流及一湊ニ定メ同沖ヨリ白子、永田、安房、等一里乃至二里迄ノ沖合ニ於テ使用セリ由來本縣ニ

於テ該繩ヲ使用スルニハ底繩(捨繩)トシテ延込ムノ慣習ナルカ故ニ底質ハ可成岩礁(俗ニアラハ)ハ避クルヲ常例トスト雖トモ又餘リニ砂泥ノ場所ハ魚ノ釣ニ罹ルコト少キヲ以テ曾根(暗礁)ノ屹立シタルヲ云フ以下同シ)若シクハ砂中平滑ナル盤礁ノ散在スル處ヲ漁場トナス而シテ屋久島近海ハ一帯ニ深海ニシテ大概七十尋乃至百尋ノ水深多シト雖トモ底質前記ノ要項ヲ具テ其ノ東岸ハ種子島トノ海峽ニ當リ潮流烈シクシテ漁場ニ適當セサルモ西海岸ハ之レニ反シ潮流緩ナリ是ヲ以テ島ヲ去ル纜ニ十丁内外ノ處ニ於テ最モ多ク使用セリ然レトモ此漁場ハ水深比較的ニ深ク五六十尋乃至八十尋ヲ有ス底質ハ間々岩礁アリ又ハ砂地ニ大小ノ石礫ヲ混交シ俗ニしのぶト稱スル微蟲ノ夥シク棲息スルアルカ爲メ軟質ナル餌料ハ僅少ノ時間ニ於テ食盡サル、コトアルノミナラス出漁シ難キ荒天ニ際シ二三晝夜繩ヲ揚クルコト能サル場合ニハ釣ニ罹リテ斃死シタルふかの肉迄モ食盡シ只皮ト骨ノミヲ殘存スルコトアリ漁業者ノ最モ困難ヲ感スルハ唯此一點ニ在リ

此外種子島近海口ノ永良都附近川邊郡西加世田村沖合ニ於テ使用セシモノアレトモ出漁回数僅少ナルヲ以テ漁場トシテノ適否ヲ充分ニ知ル能ハサルヲ遺憾トス

**漁期** 殆ト周年使用シ得ト雖トモ冬季ハ天候不穩ナルカ故ニ就業者稀少ナリ主トシテ三月ヨリ始マリ十一月ニ至リテ終ル就中(地方ニヨリ多少ノ差異アリ)四五月及十一月ヲ以テ盛漁期トナス天候ハ一般ニ平穩ナルヨリハ荒摸様ノ機ヲ好時トシ潮流ハ干満相交代スル時ヲ良トス蓋シ此時機ハ俗ニよとみト稱シ常ニ魚ノ進ミテ食餌ニ罹ル時ナルヲ以テノ故ナルヘシ

**餌料** ふかハ性貪饒ナルニヨリ其餌料トシテハ鱒鰹ノ如キハ勿論磯魚類ニ至ルマテ大低使用シ得サルナキヲ以テ漁業者ハ餌料ヲ購入スルコト尠ク大概自ラ捕獲スル爲メ延繩若シクハ一本釣具ヲ設備シ先ツふか繩ヲ使用スル前ニ餌料ノ漁獲ヲナスヲ常トス而シテ專ラ使用セラル、ハさば、あかはら、ぶり、たまめ、あかばら、そうだ、しらだ、い(くろだ、い)一種、こめじろ(皮はきの一種)のくり、くろいを(めじな)かつを、いか、きなか、もはみ、はちく(二者ふだいの一種)等ニシテ就中あ

加ばら、ぶり、たまめ、あら、ぼらヲ良好ノモノトセリ

**使用法** 底延繩(一名捨繩若シクハ地獄延)ニシテ最モ簡單ナル方法トス先ツ餌料ヲ得レハ夕刻漁場ニ到リ充分ニ方位ヲ定メ置キ帆走若シクハ漕行ニ依リ徐航シツ、根石ト稱スル重サ參拾斤大ノ石ヲ幹繩ノ一端ニ附シテ投ス次ニ餌料ヲ裝シタル枝繩二本乃至四本毎ニ二斤乃至五斤大ノ石ヲ(手石ト云フ)幹繩ニ結付シ延へ終レハ此處ニ又根石一個ヲ附シテ投入ス而シテ翌朝日出ノ頃再ヒ漁場ニ至リ「すまる」ヲ以テ搔キ止ケ徐々ニ繩ヲ手操リ權魚ヲ捕獲ス若シ夫レ暴風怒濤ニ際會センカ到底出漁スル能ハサルカ故ニ先ニ投入シタル延繩モ數日間放置シ平穩ヲ俟テ後再ヒ出帆シ漸クニシテ漁獲ヲ終了スルコト敢テ少シトセス

**漁獲** 前ニ掲記シタルカ如ク本試驗ノ主旨ハ主トシテ縣下沿岸一般ニ對シ普及ヲ圖ルヲ以テ要素トスルカ故ニ從來ノ斯業者ニ貸與スルコトナク專ラ新規企業者ノ試業ヲ目的トシタリ故ヲ以テ使用者作業全ク慣熟セス隨テ漁獲多額ナラスト雖モ亦多少ナキニアラス即チヤシ十八、とらふか十一、ひらかしら五、どんかり五、つまくろ十一、みみふか十一、計六十一尾外ニ雜魚十八尾ヲ獲タリ

漁額夫レ以上ノ如シ抑モ單ニ漁獲高ヲ以テ其試業ノ成績ヲ云爲スレハ誠ニ微々タルモノニシテ未タ良蹟ヲ納メタリトハ爲シ難シト雖モ一般ノ漁業者ヲシテふか漁業ノ前途有望ナル漁業タルコトヲ知得セシメタルト他ノ漁業ニ非常ナル防害ヲ與フルモノナリトノ從來ノ迷信ヲ打破シタルハ貸與試業ノ結果ト云ハサルヘカラス只從來使用タルコトナキ爲メ漁場ヲ詳ニセス隨テ暗礁ニ繩ヲ掛ケテ操作意ノ如クナラサリシハ漁獲寡少ノ一原因タルニ相違ナク大隅諸島近海ノふかハ體形意外ニ巨大ナルカ爲メ繩ノ太サ之レニ適合セス鈎ニ罹リシ魚ノ遁逃セントシテ極力狂廻スルアリ之レカ爲メニ垂綸斷切シテ逸去シタルモノ多カリシモ亦漁額鮮少ナル大主因タラスンハアラス即チ爰ニ鑑ミルトコロアリ三十七年度ニ於テハ更ニ繩糸ヲ堅牢ニシ繼續貸與試驗ヲナスコト、セリ

### ばせうかぢき延繩貸與試驗

試驗ノ主旨　ばせうかぢき(方言あきたろ)延繩ハ日置郡串木野村漁業ガ長崎縣對州壹州近海及韓國沿海ニ於テ盛ニ使用スル漁具ニシテ其收益多キノミナラズ本縣近海ニ於テモ斯魚ノ來游多キカ故ニ前記串木野村ノ外日置郡西市來村揖宿郡額娃村肝屬郡小根占村漁業者ノ一部自村沿海ニテ從事スルモノアリ若シ夫レ鱸ト同シク斯業ニシテ各漁村ニ普及スルアラバ其收益決シテ數十萬圓ヲ下ラサルベシ本場即チ之レヲ漁業者ニ知得セシメ以テ其普及ヲ圖ランガ爲メ串木野村ニ於テ使用スルモノト同一ナルモノ五艘分ヲ新調シ將來新ニ發展スヘキ有望ノ漁村即チ鹿兒島郡谷山村揖宿郡額娃村熊毛郡上屋久村川邊郡西南方村ノ各漁村ノ希望者ニ貸與シタリ左ニ漁具ノ構造漁場漁期餌料使用法及漁獲ニ付テ詳記セン

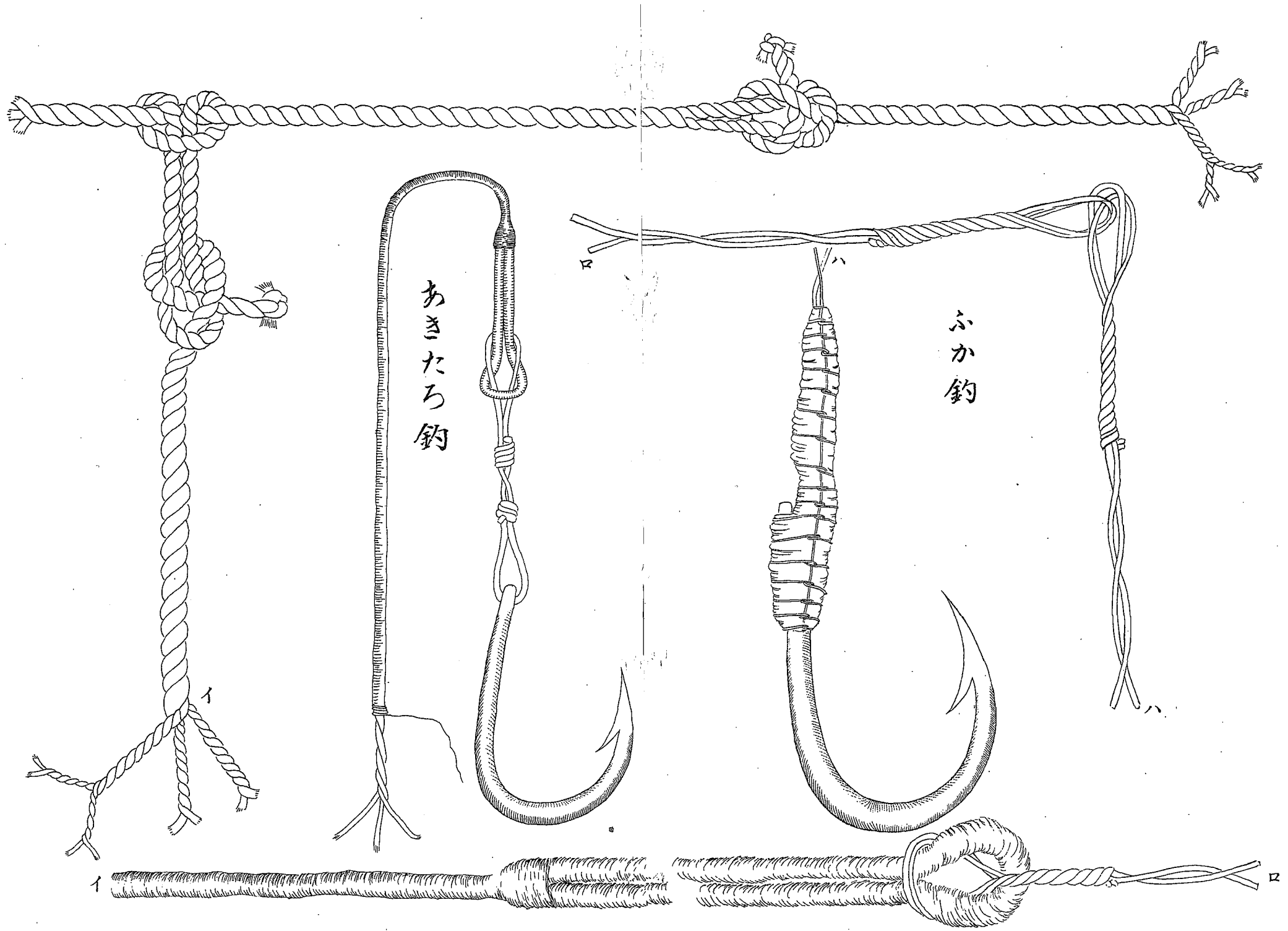
### 延繩ノ構造

幹繩ハ麻六本合セ即チ二本撚リヲ二本合トナセリ一尋ノ重量四匁ニシテ軟ナル繩ニ製ス一籠分ヲ三百五十尋トシ五籠ヲ以テ一艘分ト定ム

枝繩總長八尋アリ内六尋ハ幹繩ト同製ノモノヲ用ヒ先ニ方言「セキヤマ」一尋ノ重サ貳匁ノモノニ尋ヲ附ス釣ヲ結ブニハ眞鍮製ノ針金ヲ用ヒ單一ノ鎖狀ヲナサシム一籠ニハ枝繩十本宛ヲ附ス

釣ハ鐵製ニシテ鱸釣ト同様ノ製法ナリ頭部ニハ針金ヲ通スル爲メ孔ヲ穿テリ

浮樽ハ幹繩一本毎ニ附スルカ故全體ニ於テ六個ヲ要シ大小交互ニ用フ大ナルモノハ高サ一尺二寸上口徑一尺三寸五分底徑一尺一寸五分ニシテ之レヲ二組ノ「いれこ」トナセリ此ノ外ニ浮木及浮竹ヲ枝繩二本毎ニ交互結附ス浮木ハ桐ノ圓材徑二寸五分長サ二尺五寸浮竹ハ根部周圍五寸内外長三尋アリ根石ハ各五百匁大ノモノヲ用フ



あきたら釣

ふか釣

1

2

3

4

5

6

## 漁場

此ノ繩ヲ使用シタルハ主ニ肝屬郡佐多村下佐多岬同郡内之浦村火崎岸良沿海宮崎縣福島沖ノ各二里乃至三里ノ海上及ヒ熊毛郡屋久島ノ周縁宮之浦塚崎鼻沖合一里餘ノ場所ニシテ海深五十尋乃至百尋許アリ元來此ノ延繩ハ浮繩ナレバ底質ニハ深ク關係ナ有セサルカ如シト雖モ閩礁ノ附近小魚ノ群集スル所ヲ最好漁場トス

## 漁期

秋季ニ於テ群來最モ多キヲ以テ方言あきたろノ名アリ即チ八月ヨリ十一月迄ニシテ天候ハ饑ト同シク平穩ナルヨリハ寧ロ荒天ノ氣象ヲ好機トス潮流ハ緩急共ニ甚シカラサルヲ可トスレトモ降雨溷濁スレハ甚タ不可ナリ常ニ日出後一時間計リノ間ニ於テ魚ノ罹釣スルモノ最モ多シ

## 餌料

旗魚釣ノ餌料ニハ必ス生魚ヲ用フルヲ常トスルモノナレトモ本縣ニ於テハ生魚ヲ他ヨリ購入スルコト最困難ナレバ大概繩ヲ使用スルニ先テ一本釣ニテさば、あぢ、いか(うしいか尤モ好シ)かます、たちのうを、ふぐ等ヲ釣獲シ之レヲ簞ニ貯ヘ然ル後漁場ニ至ル就中さば、あぢ、いかハ良好ノ餌料トシテ賞揚スル所ナリ其太サハ各六七寸大ヲ適當トス生魚ヲ釣ニ裝スルニハ尤モ注意ヲ要シ背鱗ノ直後ヨリ縦ニ刺シ決シテ尖ヲ背後ニ觸レシムヘカラス若シ觸ル、トキハ直ニ死スル故ニ生餌トシテ其ノ効ヲナサ、ルナリ

## 使用法

はせふかちき延繩貸興試験

漁場ノ部ニ於テ記シタルカ如ク此ノ延繩ハ浮繩ニシテ肩巾六尺ノ舟ニ五人乘リ組ミ魚具ノ用意ヲナシ餌料ヲ獲タル後未明漁場ニ至リ帆走若シクハ漕行シ最初浮樽ヲ投シ其繩ノ長サ二十尋下ニ五百目大ノ根石壹個ヲ附シ浮樽ノ下三尋乃至六尋位ノ處ニ幹繩ヲ結ヒ徐々ニ延込ツ、餌ヲ裝シ枝繩二本乃至三本ヲ投入スレハ浮竹若シクハ浮木壹本宛ヲ交互ニ結附シ壹籠ヲ延ヘ終レハ其ノ接キ目ニ浮キ樽壹個ヲ附ス全部延ヘ終レハ初メノ如ク樽及ヒ根石ヲ投シ置キ繩ノ附近ヲ往來シテ浮子ニ注目シ魚ノ躍リタルヲ見レハ此所ニ舟ヲ寄セ此ノ部分ノミ引揚ケ鉈ヲ以テ突キ舟中ニ引揚ケ釣ニハ餌ヲ差シ替ヘ同時ニ其附近ノ枝繩二三本ヲ上ケ餌ノ有無ヲ檢スルコトアリ延繩ハ多クノ場合潮流ヲ横切リテ延ユルト雖トモ又風向ニヨリ種々ノ方角ニ延ユルコトアリ而シテ二里乃至三里ヲ流ルレハ繩ヲ揚ケ寄港ス

漁獲

あきたろ 四拾五尾

さはら 貳拾八尾

ふか 拾壹尾

しび 拾參尾

しひら 五尾

抑モばしようかぢき延繩ハ餌料ニ生魚ヲ用フルヲ以テ熟練ナル漁業者ニアラサレハ充分ナル好果ヲ收ムルコト困難ナルノミナラス從來該漁業ニ従事セルモノ、外ハ漁場探檢ニ時日ヲ費ス困難アリ加之餌料供給ニ不足ヲ生シ意ノ如ク漁利ヲ收ムル能ハスト雖トモ鹿兒郡谷山村漁業ノ如キハ宮崎縣沿海山川佐多内浦沖合ニ出漁シあきたろ、しび、ふか、さはらノ各種ヲ漁獲シ斯業ノ收利多キヲ唱導スルニ至レリ之レ亦三十七年度ニ於テ引續キ貸與試驗ヲナスコトトセリ

鹿兒島縣水産試驗場報告終

明治三十八年七月六日印刷  
明治三十八年七月十日發行

# 鹿兒島縣水產試驗場

東京市芝區三田四國町二番地

印刷者 門 岡 駒 太 郎

東京市芝區三田四國町二番地

印刷所 三田印刷所

合資社

(電話新橋一六六五)



